

工科専門学校新入生 小樽港を学ぶ



4月25日(水)、新潟工科専門学校の1年生25名が当部小樽港湾事務所を訪れました。入学後間もない学生達が、日本近代築港の原点といえる小樽港北防波堤について学ぶために来樽したもので、事務所のみならず資料コーナーにて、事務所職員の説明を受けながら見学しました。



防波堤の模型を使っでの説明



ケーソン製作用斜路の模型を使っでの説明

小樽港北防波堤は日本人による初めての第一線防波堤で、100年経った現在も有効に機能しています。この北防波堤の構造や工夫について、防波堤の模型を使って説明がありました。

また、初代小樽築港事務所の廣井勇(在任期間1897～1908年)が、諸外国の技術を研究して、大英帝国がコロンボ港で行った「スローピング・ブロック・システム※」を取り入れたことや、コンクリートを作る時、当時高価だったセメントに「火山灰」を混入し、耐海水性の向上とコスト縮減を図ったことなどについて、説明がありました。



モルタルブリケットを作るための機械を見学



敷地内に現存するケーソン製作用電気クレーン

次に、世界で初めてのケーソン製作用斜路の模型や、長期耐久試験用のモルタルブリケット(試験供試体)を作るための機械などを、職員の説明を受けながら見学しました。学生達はメモをとったり質問したりしながら、熱心に説明に耳を傾けていました。

資料コーナーの見学の後、庁舎の外に展示している北防波堤斜塊の実物や、現存しているケーソン製作ヤードと斜路を見学し、学生達は事務所を後にしました。



北防波堤斜塊の実物

※スローピング・ブロック・システム
ブロックを斜めに積み重ね、相互のもたれかかりによる摩擦力で波力に抵抗する、防波堤建設に用いられた一貫機械化工法